

令和 6 年度

教育課程特例校における特別な教育課程

【実施状況報告】

令和 7 年 8 月
箕面市教育委員会

1. 概要

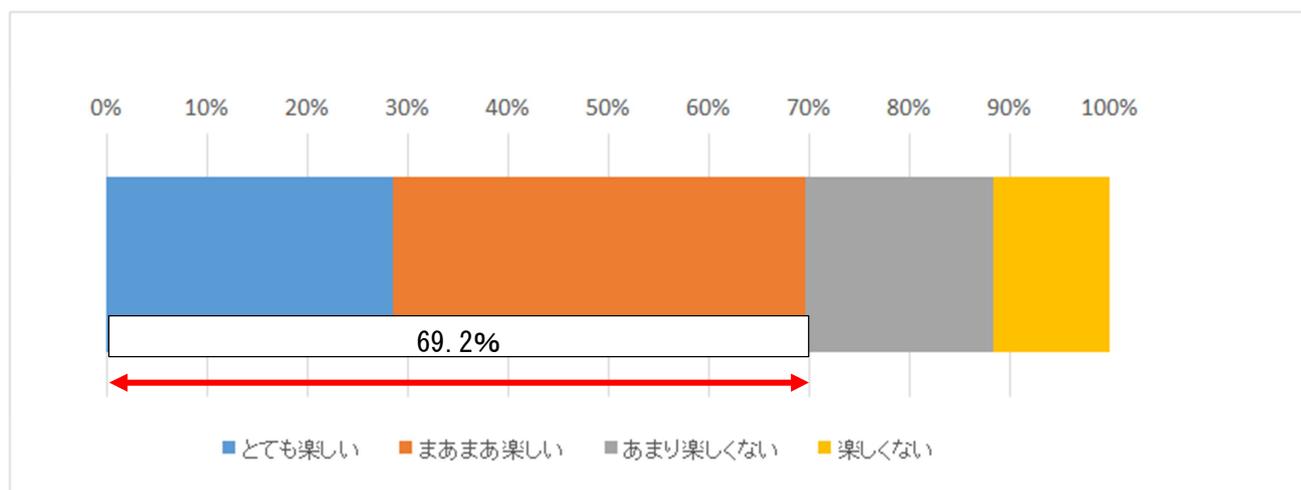
箕面市では平成 27 年 4 月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間 140 時間（週 4 時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間 30 時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に 1 時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができています。特別の教育課程を実施することで、9 年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っていきます。

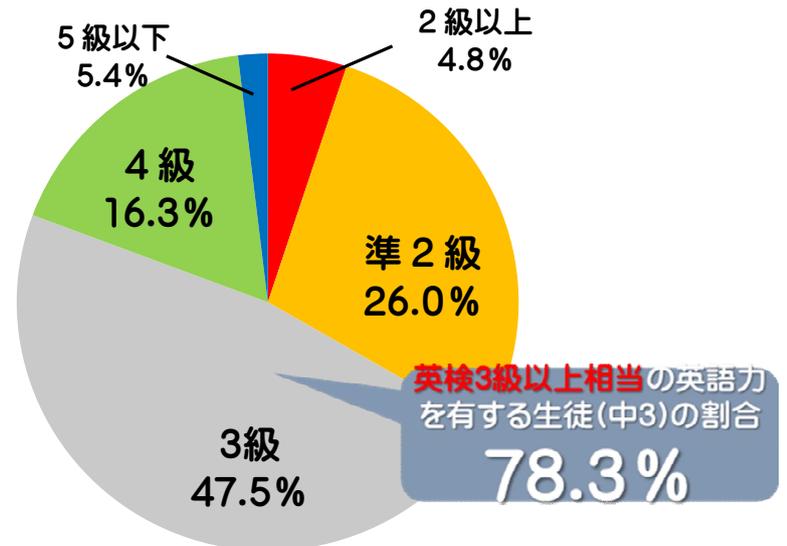
2. 箕面市の生徒アンケートの結果

○英語を使ってコミュニケーションを図ることは楽しいと思えますか。

	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
1年生（7年生）	28.5	43.5	18.5	9.2
2年生（8年生）	26.9	41.3	18.3	12.8
3年生（9年生）	29.8	37.7	19.2	12.7
平均	28.4	40.8	18.7	11.6



3. 英検 IBA 英検 3 級以上相当の英語力を有する生徒の割合 令和 6 年度実施（中 3）



4. 保護者・学校関係者からの評価

- ・英語コミュニケーション科の設定により、生徒たちが場面・状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを理解したり、これらを活用して自分の考えを表現したり、伝え合ったりする場面が今まで以上に多くみられています。
- ・6年生までの英語の授業（活動）で養われた「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」が7年生以上の教育に連携され、「コミュニケーションを図る資質・能力」を生徒たちがより確実に身につけることができます。
- ・英語コミュニケーション科の授業では、英語を使って何ができるかに重きを置いた活動を実施しているため、実際に英語を使って「伝える」「受け取る」「やりとりする」力を育成できています。
- ・英語の授業では主に知識を身につけ、英語コミュニケーション科の授業では得た知識をアウトプットすることで、英語をコミュニケーションツールとして活用するサイクルができています。

5. 今後に向けて

- ・今後さらに生徒たちが英語でコミュニケーションを取りたい、楽しいと思えるような活動を実施し、英語学習へのモチベーションを高め、積極的に英語でコミュニケーションを取ろうとする生徒を育成します。
- ・英語を知識として学ぶだけでなく、英語コミュニケーション科の授業で実際に使う機会を多く与えることで、アウトプットの機会が増え、実践的な英語力を身につけさせることができます。
- ・目的・場面・状況に応じて、相手を意識し、自分の考えや気持ちを表現できる発信力を育み、国際社会で活躍できる生徒を育てます。
- ・国際社会で活躍するグローバル人材を育成するためには、英語力だけではなく、相手の背景にある文化や習慣などを理解し配慮できる力を養わなくてはなりません。そのような力も ALT を通して学べるようなカリキュラムを英語コミュニケーション科の授業で実施しています。